

外来語「アップ（する）」の語義と用法について —コーパスを用いた分析—

松本理美

本発表の目的は、多義語である外来語「アップ（する）」について、①語義と用法（サ変動詞用法・名詞用法）により使用頻度や文法的特徴が異なることを実証的に明らかにし、②その結果と各種辞典における記述を比較し、使用実態が辞典にどの程度反映されているかについて明らかにすることである。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）を用いて抽出した「アップ（する）」の用例 2,904 例を対象に、「アップ（する）」の語義、用法（サ変動詞用法・名詞用法）等のアノテーションを施した。また、サ変動詞用法「アップする」に対して、共起成分（格成分・副詞的成分）、文末形式などの文法的特徴について計量分析を行った。

その結果、語義や用法により使用頻度には偏りがあり、レジスターによる使用の偏りが顕著なものもみられた。サ変動詞用法は語義①「上げる・上がる」、語義⑤「アップロード」に偏って使用され、名詞用法は語義①、語義⑤、語義⑥「クローズアップ」に偏りながらも、語義③「髪を上でまとめる」や語義⑦「ウォーミングアップ」でも一定数の使用が認められた。更に詳しく見ると、語義①は空間移動の意味ではなく、ほとんどが量の増加、増大の意味で使用されていること、語義⑤は 90%以上がブログという限定された場面で選択的に使用されていることなどが明らかになった。これは、和語と外来語の親和性の高さと使用環境が、外来語定着の条件であることを示唆するものである。

また、文法的特徴において、幅広く使用される語義①と極めて限定的な意味を持つ語義⑤を比較すると、語義⑤のほうがガ格やヲ格の省略が多く、格成分の出現傾向にも差があることが明らかになった。

さらにこれらの使用実態が辞典の記述にどのように反映されているかについて 4 種類 10 点の辞典を調査したところ、語義①～語義⑦のすべての語義が記述され、語義によって用法が異なることなどを記述している辞書はなく、使用実態の反映が不十分であることが明らかになった。